

● 連続シンポジウム～9月27,28日 ●

超高齢者社会へ向かう日本と中国 ——

高齢者ケアを考える

1972年の日中国交回復以降、日本と中国の文化的交流や経済的な繋がりが深まって来ました。しかし、この間、日本の近代以降の歴史認識、つまり、海外侵略の歴史的反省については、日本社会では、むしろ時計の針を逆まわしにする機運が強くなっています。こうした逆風を変えていく力の一つは、過去を見つめ、未来を展望する日中民衆の自覚的・自主的な交流の前進であるといえましょう。



【南京大虐殺遭難同胞記念館の彫刻群より】

日本も中国も、急速な勢いで超高齢社会へと突入しつつあります。こうした日中民衆にとって共通に解決すべき課題について、それぞれの社会的文化的相違について相互理解を深めながら、この超高齢者社会にどのように対処していくのか、とりわけ高齢者ケアの問題を両国の経験を突合せながら問題の適切な解決方法を見つけ出していくことが重要な時期にきています。

日本では、保険財源の切迫から介護保険の制度を守るため要支援（要介護レベルの低い層）を介護保険から切り離すなど介護保険の制度疲労がいよいよはっきり始めています。とりわけ、介護労働者の質・量両面の確保が望めないという深刻な事態が介護現場に押し寄せています。

中国では、経済発展から取り残された農村と都市の二元社会の矛盾が高齢者問題に大きな影を落としています。都市の高齢者施策では、介護の担い手

を50代前後の農村からの出稼ぎ的労働力に依存していますが、やはり、介護労働者の質・量両面の確保が近い将来壁にぶつかるであろうことが予測されます。

今回、ここ5年間にわたって交流を進めてきた南京市社会福祉サービス協会や鐘山学院から研修視察団を大阪にお迎えすることになりました。その一環として、大阪市立大学・創造都市研究科都市共生社会研究分野の主催でシンポジウムを開催することになりました。（日時、内容は裏面）

【参加費など】 参加費は、無料。関心ある方は気軽に参加を！

【主催】 大阪市立大学大学院創造都市研究科都市共生社会研究分野

【連絡先】 大阪市立大学大学院創造都市研究科都市共生社会研究分野（担当者・水野）
大阪市北区梅田1丁目2-2-600（大阪駅前第2ビル6階）

TEL 06-4799-3700 FAX 06-6344-5425

<シンポジウム1日目>

9月27日（金）午後6時30分～9時（開場：6時）

大阪市立大学梅田サテライト101号教室（大阪駅前第2ビル6階）

（テーマ）

介護・ケアの意味を考える～両国の「介護の社会化」の現状と課題

（司会） 竹村 安子（市大・講師、元大阪市社会福祉協議会地域福祉担当）

（日本側パネラー） 三井さよ（法政大学）「介護の現場から見えるもの～共生ケアの面白さ」
水野博達（大阪市立大）「日本と中国の介護の現状と課題の比較報告」

（南京市側パネラー） 王 国俊（南京市社会福祉協会の副会長）

（シンポ参加者による懇親会） 午後

9時半～10時半 大阪駅前第2ビル地下2階で

【参加費は実費（概ね3000円）徴収します。】

<シンポジウム2日目>

9月28日（土） 午後1時半～5時（開場：1時）

キャンパスポート大阪（ルームD・E）（大阪駅前第2ビル4階）

（テーマ）

両国の介護労働者の養成・育成の現状と課題

（司会）：水野 博達（大阪市立大学創造都市研究科）

（日本側パネラー） 桑野弘（加寿施設長） 「介護現場の現状報告」
中井久子（大阪人間科学大）「介護職員養成（教育課程）の現状と課題」

（南京市側のパネラー） 姜 銳（鐘山職業技術学院）
「南京・江蘇州における介護人材の養成計画とその課題」（仮題）

（注意事項）

* 一日目（27日）と二日目（28日）の開催時間が異なります。注意下さい。

* また、会場も、同じ大阪駅前第2ビルですが、
27日は、6階の大阪市大・梅田サテライト教室101号
28日は、4階のキャンパスポート大阪（ルームD・E）